



「佐々木さんを支援する会」会報

ウブムエ

事務局 〒235-0041横浜市磯子区栗木1-22-3/TEL 045-774-9861洋光台
バプテスト教会内(蛭川明男牧師) / ●世話人代表 金子 敬
●事務局長 吉高 叶 (栗ヶ沢バプテスト教会 TEL 047-341-9459)

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe)とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

巻頭言

伊藤世里江
いとうよりえ

富士吉田バプテスト教会牧師

二人または三人が わたしの名によって集まるところ

1月11日～13日に行われた三バプテスト女性会リーダーシップ研修会の前日の主日、佐々木和之さんに富士吉田バプテスト教会にお越しいただいた。「ウブムエ」をはじめさまざまな発信からルワンダでの働きや和解のメッセージを聞いてはいたものの、やはり直接、ご本人に接して、交わりの機会をいただくと、今まで文字で見ていた事柄が生きたかかわりをもって迫ってくる。

今回、富士吉田教会の説教では、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)の箇所を、「和解を必要としている二人または三人が共に集うところに、主イエスが共におられる」と、解釈された。被害者側、加害者側の人たちが共に立つ現場におられる佐々木さんが、聖書の前後の文脈から読み解かれたことを丁寧に伝えるメッセージは深い説得力を持った。

続いての午後のルワンダでの活動報告と質疑応答の時間では、集った人たちから心の深いところにかかわる問いが語ら

れた。「わたしにはどうしてもゆるせない人がいる」「わたしはゆるしてもらわなければならない人(こと)がある。どうしたらゆるしてもらえるのかと考えるとつらい」「クリスチャンだからゆるさなければならない、とどこかで思ってきた。しかし、ゆるしも恵みであり、『ねばならないからすることではない』と気づかされた」など。

佐々木さんには人の心を解く不思議な賜物がある。警戒心を取り、ありのままの自分を投げ出せる。深くうなづきながら、じっと聞いてくださる佐々木さんに、建前ではない自分の弱さを出せる。このようにしてルワンダでも、佐々木さんに心を開き、ゆるせない思いや、ゆるさなければならない痛みをルワンダの人たちが語っているのだろう。「カズ、カズ」と呼ばれながら。

続く、三バプテスト(三バプテスト(沖縄バプテスト連盟、日本バプテスト同盟、日本バプテスト女性連合)女性会研修会では、沖縄の女性たちの反応がとても鋭かった。「沖縄もルワンダと同じ

だと思った。沖縄の人たちが普天間のことで思いがいっぱいだというのに、本土の人たちは無関心のままだ」と、率直ないらだちをぶつけてくださった。沖縄のことは参加者一人ひとりの大きな課題となった。佐々木さんもわたしたちも

そのことを真摯に受け止めた。

簡単に共に集えない者たちが、主イエスの名によってのみ、共に集い得る。そこに希望の光がある。聖書の言葉がルワンダの発信からまた生きてくる。「和之との出会いに乾杯！」

佐々木和之 ささきかずゆき

希望の光。この美しい国に。

想像を越えた深い悲しみを負いながらも、前を向いて生きているルワンダの人々への支援を、これからも。

■ ムラーホ！

2月下旬から妻の恵が約3週間の予定で帰国しています。乳がんの手術を受けてから2年半になりますが、帰国直後に受けた定期健診の結果、再発の兆候が無いことが分かり、ほっとしました。私たち家族の健康と安全のためにお祈りくださり、有難うございます。あと2週間、長男の仁（じん）と次男の共喜（ともき）と男3人の生活が続きます。

■ ルワンダの政治状況

まずは少し物騒なニュースからお伝えすることになります。2月19日の夜8時頃、首都キガリで衝撃的な事件が起きました。利用客でごったがえしていたバスの発着所を含め、キガリ市街の3箇所に手投げ弾が投げ込まれたのです。居合わせた1人が死亡、15人が重症を負いました。コンゴを拠点にする反政府勢力犯行説と、最近政権を離反し、南アフリカに亡命した元国軍トップの人物らによる謀略説の両方があり、真相は全く分かっていません。

ルワンダでは今年8月、7年ぶりの大統領選挙が予定されています。ルワンダは複数政党制の国です。しかし、前回の国政選挙では与党であるルワンダ愛国戦

線（RPF）が90%以上の得票率で圧勝し、議会において絶対的な勢力を誇っています。また、現在議会で議席を保持している小政党は全てRPFのカガメ大統領を支持しており、政権奪取を目指すという意味での「野党」ではありません。これに対し、昨年以降3つの新しい野党勢力がカガメ体制打倒に向けて動き始めました。半年後の大統領選挙まで、今後緊張が高まることが懸念されます。どうか、平和裏に、そして出来る限り公正な選挙が行われますようにお祈り下さい。

ここまで書いたところで、今晚（3月4日）、再び手投げ弾による爆破事件が2箇所であり、16名が負傷したとのニュースが入ってきました。その一箇所は、REACH代表のフィルバードさんと、明日夕食を共にしようと思っていたホテルでしたので、戦慄を覚えました。これ以上、このような凶行が繰り返されることのないよう、ルワンダの平和のために続けてお祈り下さい。

■ 「償いのプロジェクト」影響調査

昨年10月下旬、償いのプロジェクト第1期の総括・評価のためにキレへ郡で実施した調査について報告します。家造りに取り組み、労働奉仕刑を満了した虐殺

加害者と、家を建ててもらった虐殺生存被害者(genocide survivor)の双方に、アンケート調査と詳細な聞き取り調査を実施しました。ルワンダ教育大学の学生に通訳兼調査助手役をお願いし、約1週間、朝から晩まで個別訪問を繰り返し、データを収集しました。強い日差しを浴びながら、現場を歩き回るのは大変ですが、やはり、人々の生活の場でじっくり話を聞く機会は貴重です。想像していた以上の発見がありました。

以下の2つの表をご覧ください。表1は、虐殺生存被害者である20人の受益者（女性17人、男性3人）に対するアンケート調

査の結果の一部をまとめたものです。プロジェクトにより家を建ててもらったのは、虐殺生存被害者の世帯が20、その他の貧困家庭の世帯が5で、計25世帯でしたが、このアンケート調査は、虐殺生存被害者の20世帯のみを対象にして実施しました。次に、表2は元受刑者に対するアンケート調査の結果の一部をまとめたものです。プロジェクトに参加した200人あまりの元受刑者の中から、既に刑期を満了し、家族と共に暮らしている人たち計20人（男性18人、女性2人）からアンケートをとりました。

表1： 虐殺生存被害者である受益者に対するアンケート調査の結果

調査項目	はい	分からない	いいえ
A. プロジェクトに参加した体験			
1 受刑者と関わりを持って良かった。	20人	—	—
2 受刑者の家造りによって精神的にストレスを感じた。	2人	—	18人
3 受刑者以外の人たちに家を建ててもらったほうが良かった。	—	—	20人
B. プロジェクトの心的影響			
1 この集落で暮らすのが以前より安全であると感じる。	16人	1人	3人
2 ストレスが減った。	16人	—	4人
3 将来に希望を持てるようになった。	20人	—	—
C. 加害者に対する感情			
1 家造りに参加した加害者に対する怒りが弱まった。	17人	—	3人
2 家造りに参加した加害者に対する恐怖心が薄れた。	18人	—	2人
3 私には今、加害者の中で信用できる人がいる。	17人	—	3人
4 加害者を赦すことについてより肯定的に考えるようになった。	18人	—	2人
D. 加害者及びその家族との関係			
1 加害者側の人々との関係が良くなった。	18人	—	2人
2 家造りの後も、加害者たちとの交流がある。	19人	—	1人
3 プロジェクト開始以降、実際に加害者を赦した。	15人	—	5人

以下、表1と表2に示されている調査の結果を、詳細な聞き取り調査の結果も織り交ぜながら、項目（A, B, C, D）ごとに見ていくことにします。

★A. プロジェクトに参加した経験

調査対象の受益者全員が、プロジェクトを通して、受刑者と関わりを持ってたことを肯定的に評価しました。「受刑者以

外に家を建ててもらったほうが良かったか？」の質問には全員が「いいえ」と答えました。虐殺の被害者たちが、加害者による「償いとしての家造り」を高く評価していることが分かりました。

殆どの受益者は、家造りが始まる前にREACHの活動を通して加害者の夫がいる女性たちとの関係修復を果たした人たちです。また、セミナー等の機会に、直接の

加害者数名とも出会っていました。多くの受益者にとって、それらの経験が良い「心の準備」になったとのことでした。

しかし、そう語ったものの、実際には、受益者たちが加害者たちを迎え入れるにあたっては、様々な葛藤があったようです。例えば、マリアクローディンさんは、「最初は正直怖かったけれど、だんだん受刑者がやってくるのが日常になり、次第に言葉を交わせるようになった。」と語りました。

また、ジャクリーヌさんは、家造りが始まる前、彼女に直接謝罪したタデヨさんのことをどう受け止めてよいか分からず、苦しい思いをしたことを率直に話してくれました。しかし、これらの女性たちが、プロジェクト開始当初に感じた精神的なストレスは、次第に弱まっていったということでした。

一方、元受刑者たちは、被害者たちが自分たちを暖かく迎え入れてくれたことに感謝し、プロジェクトによって被害者との関わりが持てたことを高く評価しました。

★B. プロジェクトの心的影響

大多数の受益者が、プロジェクトにより、「暮らしがより安全になった。」、「ストレスが減った。」、「将来に希望を持てるようになった。」、と答えました。必要があれば鍵を掛けることも出来る、「我が家」を持ったことによる安心感、間借りのための家賃を払う必要がなくなり、経済的な負担が減ったこと、また、同じ集落に住んでいる加害者に対する恐怖心が薄まったことなどが、プロジェクトが心的に良い影響を与えたと感じている理由としてあるようです。ある受益者は、聞き取り調査で「以前はよく悪夢を見たし、いつ襲われてもおかしくないと思っていた。でも、今はそういうことが無くなった。」と語りました。

大多数の元受刑者たちも、受益者同様、プロジェクトが心的に良い影響を及ぼしたと語りました。元受刑者の中には、地元に戻れば被害者側から報復を受ける、と思っていた人たちがいます。償いの家造りにより、被害者たちとの関係が良くなったと感じていることが、不安やストレスの軽減をもたらしたと見られます。

表2：虐殺加害者である元受刑者に対するアンケート調査の結果

調査項目	はい	分からない	いいえ
A. プロジェクトに参加した体験			
1 被害者との関わりを持てて良かった。	20人	—	—
2 被害者は自分たちを暖かく受け入れてくれた。	20人	—	—
B. プロジェクトの心的影響			
1 この集落で暮らすのが以前より安全であると感じる。	20人	—	—
2 ストレスが減った。	16人	—	4人
3 将来に希望を持てるようになった。	20人	—	—
C. 被害者に対する感情			
1 被害者に直面するのが怖くなくなった。	19人	—	1人
2 未だに会いたくない被害者がいる。	—	—	20人
3 償いの行為を続けていく責任があると感じる。	17人	2人	1人
D. 被害者及びその家族との関係			
1 被害者側の人々との関係が良くなった。	20人	—	—
2 プロジェクト開始以降、被害者側の家族に謝罪した。	19人	—	1人
3 家造りの後も、加害者たちとの交流がある。	20人	—	—

★C. 相手側に対する感情

家造りに参加した加害者に対する「怒りが弱まった」や「恐怖心が薄れた」など、受益者の加害者(元受刑者)に対する感情に良い変化が見られることが分かりました。また、特筆すべきことに、個人的に「信用できる加害者がいる」と答えた受益者が、20人中17人に上りました。更に、家を建ててもらったことで、「加害者を赦すことについて、より肯定的に考えるようになった」と答えた受益者も、20人中18人に上りました。

一方、調査の対象となった元受刑者のほとんどが、「被害者に会うのが怖くなくなった」と、プロジェクトに参加したことにより、相手への恐怖心が弱まったと答えました。また、20人中17人が、刑期を終えた後も「償いの行為を続けていく」責任感を持ち続けていることが分かりました。

★D. 両者の関係

受益者と元受刑者の両方が、プロジェクトにより相互の「関係が良くなった」と答え、プロジェクトの「和解効果」を高く評価しました。家造りが終わった後も「交流を継続している」と答えたのは、受益者20人中18人、元受刑者に至っては20人全員でした。また、「プロジェクトの開始以降、実際に加害者を赦した」と答えた受益者は、20人中15人に上り、「償いの家造り」が赦しを与えるきっかけになったことが明らかになりました。



【笑顔で言葉を交わす被害者と加害者】

一方、プロジェクトの開始後、「被害者側の家族に謝罪した」元受刑者は20人中

19人。加害者による被害者への謝罪と償い、そして、被害者による加害者の赦しが、プロジェクトに参加した人たちの間で実現していることを確認しました。



【元受刑者からの聞き取り】

今回の調査を終え、私は、プロジェクト実施地域で暮らす人々が、大虐殺後の共生のために懸命の努力を続けていることに心を打たれました。冠婚葬祭のときにお互いを招待しあったり、加害者側の家族が被害者の農作業を手伝ったり、あるいは被害者が、服役中の加害者の妻の負担を減らすために、代わりに刑務所まで行って食糧の差し入れをしてあげたり…今回の調査で、そのような驚くべきことが分かりました。また、プロジェクトが、そのような、草の根の人々自身の和解への歩みを後押しするものになったことを確認し、そのことをとても嬉しく思います。今後は、収集したデータを更に分析し、プロジェクトが現地の人々に与えた影響だけでなく、今後の改善点についても明らかにすることにしています。評価報告者がまとまりましたら、ホームページに掲載する予定です。

■ 拡がる自主的な家造り

前号でお伝えした、「償いのプロジェクト」OBによる家造りは、まずタデヨさんのグループにより1軒が完成しました。先日、受益者のヴァレリヤさん(前号参照)から話を聞きました。雨漏りのひど

かった小屋から転居を済ませ、「安心して眠れるようになった。」と、笑顔で喜びを語ってくれたヴァレリヤさん。これまで、どちらかというときと厳しい表情のときが多かった彼女ですが、小学生になる2人のお子さたちを見るとき、優しい顔がとても印象的でした。



【完成したヴァレリヤさんの家】

今後、タデヨさんたちは、3名の虐殺生存者である女性たちのために、1軒の建設と2軒の補修工事を始めたいと言っています。また、嬉しいことに、タデヨさんたちの他にも2つのグループが、ボランティアの家造りを始めたいと申し出てくれました。その結果、3つの集落で計7軒の家造りが計画されています。間もなく、皆様からの支援金を使わせて頂いて、家造りに必要な材料費の支援を開始したいと思います。次号の報告をお楽しみに！

なお、労働奉仕刑の受刑者が参加する家造りですが、残念ながらキレヘ郡では当面実施できそうにありません。政府のプロジェクトであった、道路工事やテラス造りなどの仕事が一段落したため、郡内のキャンプに収容されていた受刑者たちは、まだ同様のプロジェクトが動いている他郡のキャンプに移動させられたのです。今後、キレヘ郡以外のREACHの活動地で受刑者を対象とした「償いのプロジェクト」が開始可能かどうか検討したいと思います。

■終わりに

2週間前の手投げ弾テロが起きた翌朝、暗い気持ちになっていた私たち夫婦のところに、マリゴレッティが突然訪ねてきてくれました。彼女は、孤児を含め、困難な境遇にある若者たちの職業訓練のためのNGO活動を献身的に続けてきたルワンダ人の女性ですが、これまでお互いが様々な試練に合うたびに祈り励ましあってきた大切な友人です。その朝も彼女、私、恵の3人でルワンダの平和と和解、そして、必要な変革のために共に祈りました。

今号でお伝えしたように、ルワンダの状況は決して楽観視できるものではありません。しかし私は、このマリゴレッティや多くの家造りプロジェクトの参加者たちのように、平和のために真剣に祈り、足元から行動を始めている人たちから希望をもらっています。そして今、「和解の主」イエス・キリストが、彼らと共に、そして私たちと共に、いて下さることを信じています。

想像を絶する深い悲しみを負いながら、それにもかかわらず前を向いて生きている人々への支援をこれからも続けてゆきましよう。彼らが灯している希望の光を決して消してはなりません。その希望が、次の世代を担う若者たちにしっかりと受け継がれ、やがてこの美しい国に真の平和が実現するように。(3月5日記)



【タデヨさんとご家族】

嬉しい知らせ

佐々木 恵

ささきめぐみ

ささやかな出会いから生まれた小さな働きも不思議に育てられています。私も、家族も、そこで育てられています。

先日、ピース・インターナショナル・スクール (P. I. S.) のデニスさんから和之に、とてもうれしい電話がかかってきました。日本大使館の職員の方からデニスさんの所に電話があって、「草の根無償資金」から、新校舎の建設費用を支援してもらえることが正式に決定したというのです。

デニスさんの自宅も含まれるP. I. S. の建物は、一昨年から都市開発計画による取り壊し地区の対象になっていて、立ち退きを求められていました。学校の数百メートル手前まではすでに開発がはじまっていて、建物は全て取り潰されてしまいました。そんななか、デニスさんの学校の存続が危ぶまれていたのです。

私と和之は、日本の皆さんにお手紙を書いてお祈りの支援をお願いし、「佐々木さんを支援する会」のホームページでP. I. S. の窮状を報告しました。すると、そのホームページの記事を読まれたある方が、はるばる日本からデニスさんに連絡をとってくださったのです。

その方は、20年くらい前にデニスさんがケニアにいたころにとっても親しくしていた日本人の方で、お二人は同じ教会に通う兄弟のような間柄だったのです。ちなみに、その後生まれた2人の娘さんには、その方の娘さんの名前をもらって、マナちゃん・ソノミちゃんという名前をつけているほどなのです。

昨年の1月、その方がお仕事の出張で隣国ブルンジに来られ、お2人は10年以

上ぶりに再会を果たしました。そして、その方からの献金やバプテスト女性連合の皆さんからの支援金を用いて、キガリから車で2時間ほど南西にあるニャンザという所に、学校の建設用地を購入することが出来たのです。その後、校舎の建設資金が与えられるようにお祈りいただいてきたのですが、今回、このような形でその祈りが叶えられたことを、とても嬉しく思います。

先日3ヶ月ぶりにP. I. S. の折り紙教室に出かけました。ルワンダは今年、11月から2月までの3ヶ月間、長いクリスマス休暇だったのですが、その休みが終わり、青年海外協隊のお二人もボランティアとして参加して下さり、ひさしぶりに楽しい時間を過ごしてきました。子どもたちはすでに日本の童謡や賛美歌を10曲ほど覚え、簡単な挨拶も覚えています。また、日本との関係もいろんな形で広がってきました。関東学院三春台小学校の皆さんは、算数セットや鍵盤ハーモニカを寄贈してくださいました。また、バプテスト連盟の九州地方連合の小学科では、コーヒータイムで得た収益金をささげてください、更には、鳥取福音ルーテル教会の教会学校の皆さんは、ここ数年クリスマスに合わせ、こちらの子どもたちが楽しめる折り紙を色々工夫して、プレゼントしてくださっています。個人的に工作キットなどを送ってくださる方々もおられます。

「うちの学校で日本語を教えてくれな



[P.I.S.の課外授業の後で]

いか！」というデニスさんの呼びかけにお応えする形で始まったP. I. S. との関係が、このように思いもかけず、どんどん広がってきているのです。デニスさんは、「この学校は、日本人の学校だ！」といっています。P. I. S. は、デニスさんがルワンダの貧しい家庭の子どもたちと、戦火を逃れてルワンダにやってきたコンゴ難民の子どもたちの窮状に心を痛めてはじめられた学校です。でも、今、それだけにとどまらない、日本にいる皆さんと、現地の人々をつなぐ役割を担って、新しい一歩を踏み出そうとしているのです。

(3月2日記)

●家族の近況です●

萌：第一志望のICU（国際基督教大学）に9月から進学できることに大喜び！ところが、サッカーの試合中に膝を痛め、再び手術を受けなければならぬことになってしまいました。

仁：9月からケニアの高校への編入を希望。学校からの返答を待っています。アメフト、ラグビー、バスケットボール、サッカーと、様々なスポーツを楽しんでいます。

共喜：複数の学校の生徒たちが参加した演劇で、効果音担当を無事やり遂げました。

恵：日本で家族や友人と楽しい時を過ごしています。定期健診も無事終わって感謝！

和之：1月下旬に博士論文の口頭試問を受け、無事合格しました！最低1週間に1回は体を動かそうと、テニスやフットサルを始めました。

いつもお祈りくださりありがとうございます。これからも、私たち家族の健康と生活を覚えてご加祈下さい。



[親しくしている宣教師一家と]

事務局からお知らせ

●お知らせ①

佐々木さんの活動が、最近出版された本で紹介されました。

伊東乾著 『ルワンダ・ワンダフル』 解放出版社
どうぞお読み下さい！

●お知らせ②

ルワンダ大使館が主催するジェノサイド16周年記念会が、
「支援する会」事務局のある洋光台教会で開催されることになりました！

会場：日本バプテスト連盟 洋光台キリスト教会
日時：4月10日(土)午後2時~5時

プログラム：

- 開会の辞
アントワーヌ・ムニャカジニジュール駐日ルワンダ大使
- ルワンダ和解委員会製作の映画上映
- 記念講演
武内進一氏（JICA研究所上席研究員）
大津司郎氏（フリージャーナリスト）
- 質疑応答
- 佐々木さんからのルワンダ発ビデオメッセージ
- 閉会の辞
アントワーヌ・ムニャカジニジュール駐日ルワンダ大使
- レセプション

洋光台バプテスト教会の連絡先は、
この「ウブムエ」の表紙のタイトル横
に記載されています。

参加される方は、あらかじめ人数な
どをご連絡いただければ幸いです。

なお、駐車場には限りがございます
ので、なるべく公共の交通手段をご利
用ください。



ルワンダ本国で開催されたジェノサイド記念会

●お知らせ③

新たに支援をくださった方々です。感謝致します。

(’09年9月1日～’10年1月31日)

須賀康子、保手浜進、日本バプテスト連盟・北関東地方連合少年少女会、野口直樹、高野まゆみ、新井ミキエ、岩崎倉子、山本久美子、徳永節子、古山夏子「平和を祈るゴスペルコンサート」、長池秀子、荒木真美子、播磨実結、日本バプテスト連盟・第47回全国青年大会、成尾智美、高 美穂、渡辺 洵、酒井 愛、尾関葉子、服部優子・賢治、佐々木竣一、菅原加代、石丸靖子、山本正昭、平バプテスト教会、仙台基督教会、仙台基督教会有志、仙台基督教会・オリブ会、藤田陽子、木本久代、橋本博子、岸 栄子、栗原良子、鈴木清子、清水保弘・智子、緒方貴子、平出直道、淀川道夫、池内節廣、武田・佐々木、大和友子、久野順子、加来国生、井上悦子、片野淳彦、木村憲子、山岸宏子、木下清久、花川トモ子、旭川バプテスト教会、江原美歌子、福岡YWCA平和委員会、中村健市・順子、関西地方連合女性会、関西地方連合・讃美大会、日本バプテスト京都教会、札幌報告会、大川英登・圭子、一谷勝之、清水由美、恵泉女学院 中学・高等学校（服部伸江先生）、山田素朗・孝子、中川和彦、桶田紀夫、佐藤玲子、村島 潔、神美智子、安永 卓、仲栄紀代子、北山バプテスト教会、三浦順子、藪内玲子、関東学院教会教会学校、芦屋三条教会、今治バプテスト教会、高橋 一、札幌バプテスト教会青年会、すすめの涙、佐々木さよ、浅野直美、井関康子、財団法人福岡YWCA、沖村典子、伊藤 倭、鈴木悦子、鈴木道子、宮脇勝男、濱地義孝・寿賀子
以上（敬称略・献金年月日順）

●郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会●

- 事務作業を簡素化するため、すべての支援者に一律に「振替用紙」を同封させていただいています。請求ではありませんのでご了承ください。必要な方はご利用ください。
- なお、「郵便自動引き落とし」をご利用いただけます。ご連絡いただければ、所定の申込用紙を送らせていただきます。
洋光台教会・蛭川までご連絡ください。（電話045-774-9861）
- 佐々木さんを支援する会HP（ホームページ）

<http://rwanda-wakai.net/>

佐々木さんの活動報告、写真館、等。

HPから入会手続きも可能です。

佐々木和之さん、恵さんのブログも適時更新しています。